

令和6年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和7年2月25日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受け）
育 成 す る 自 ら 学 ぶ 意 欲 と 活 用 で き る 確 かな 学 力 を	聴く力と伝える力の育成	・「学びに向かう三か条」の定着を図る。	B	○生徒のつぶやき等を拾って、授業を深めるよう心がけた。	A	・肯定的評価の低い項目、特に「学びに向かう三箇条」の定着を学校の課題として生徒・教職員が捉え、具体的な手だてを工夫して実践していただきたい。 ・授業に取り組む生徒の表情から自ら学ぶ雰囲気はできていると感じられた。自主的に学ぶ意欲を育てることが学力向上につながる。 ・テスト等の評価や家庭学習は市内でも先進的な取り組みをしておりすばらしい。豊城中の目ざす教育は時代に対応した教育であると保護者にもっと知らせる必要がある。	・単元テストのよさを、保護者にさらにアピールしていく必要がある。（4月末の学校説明会、ホームページ、年2回の学校評価アンケート等） ・家庭学習へのアドバイスは、テスト週間に行われる面談週間に学習カウンセリングを位置づける等個別に充実させたい。
		・他者意識をもって表現する力を育む。	B	○単元構想の充実により、「わかる」「使える」授業になってきている。			
	学ぶ意欲の向上	・「わかる」楽しさ、「使える」楽しさ等を感じられる、個に応じた支援を充実する。	B	○少人数授業の中で、個別の声かけや生徒からの質問に対応することができている。			
		・少人数指導（英語・数学）を充実発展する。	A	▲家庭学習に対するアドバイス等、個に応じた学習ができる環境を整え充実していきたい。			
な 心 を 醸 成 す る 自 尊 心 と 利 他 心 を 育 み、 し な や か で お お ら か	心を耕す教育の推進	・自他のいのちや人格を尊重し、人間関係が円滑になるコミュニケーション力を養う。	B	○日頃から、いのちを大切に、人格を尊重する姿勢で生徒と向き合うことができている。	A	・小さいことでもすぐに対応するスピード感が大切。 ・生徒に起きている現象（カミングアウト・進路選択）を見ていると、自ら人生を切り拓く基礎ができているように思われる。 ・登校時、23号線沿いで中学生がその子なりの挨拶をしているのがわかる。 ・身のまわりの整頓については、昨年度より肯定的評価値が低かったため、策を講じる必要がある。 ・グリーンルームが生徒の居場所や一時避難としてうまく活用されているのは、とても心強い。 ・SNSは、頭在化していないからといって、必ずしも問題が生じていないとは限らない。継続的な対策・対応を期待。	・1日に1度1分間のように、全校一斉に身のまわりを整頓する時間を設けて継続的に取り組む等で生徒の意識を変えていきたい。 ・SNS詐欺勧誘等の具体的事例の講習等の充実をさせたい。
		・時間を守る、美化（黙働清掃）活動、自ら挨拶する『時場礼』意識の行動化を図る。	B	○生徒指導には、その日のうちに対応委員会を開く等、スピード感をもって複数で対応できるようになってきている。			
	個に寄り添う教育の推進	・いじめ、不登校、発達障害の理解と未然防止に努め、組織として、すばやく誠実に対応する。	B	▲職員自身がSNSを利用していないことが多く、知る機会が必要。			
		・SNS功罪を理解する場面を設定する。	B				
安全安心を高める教育活動を展開する。	危険対応意識や対応力育成	・火災や地震、不審者対策を想定内として位置づけ、実効性の高い避難訓練を実施する。	A	○さまざまなケースを想定した訓練が企画され充実していた。毎回、生徒の真剣な取り組みが見られた。 ▲防災週間等、単元として学ぶ機会があるとよい。	A	・制度づくりも大事だが、想定外の事象が発生することも念頭に置き、さらなる考察をしていただきたい。 ・中学生には、災害時の即戦力として大いに期待している。 ・小中合同引き取り訓練の実施に向けていきたい。	・校内での訓練だけでなく、地域防災訓練にもぜひ参加させていきたい。 ・リアル避難訓練（告知なし）等で実践的な力を身につけさせていきたい。
			A				
教 職 員 集 団 を 目 ざ す 専 門 性 が 高 く、 組 織 と し て 機 能 す る	「授業で勝負」する教師集団	・生徒理解や魅力ある教材づくりに努める。	A	○地域教材や生活の中から生まれる疑問を大切に授業づくりが多く見られた。 ▲動画視聴だけで終わるのではなく、経験からの学びも大切にしつつ、反復練習等でさらにタブレット活用を意識したい。そのために、故障に早急に対応できるシステムが必要。	A	・11月のブロック現研では生徒が本当に追究したくなる疑問を大切に授業が展開されていた。今後も期待したい。 ・「研究」に取り組むことは、教師の授業力の向上につながるものである。教師自身の資質向上のための機会として取り組んでいただきたい。 ・授業を参観したところ、かつての一斉授業と比較すると一見緩いと感じられるが、生徒のつぶやきや表情から、楽しく生き生きと学ぶ雰囲気が感じられた。これが一番大切である。 ・ICT化を促進していく上で、故障時に速やかな対応ができるよう、充実したICT環境を構築していただきたい。特に教師機操作のため教師の位置が固定されている授業が多く見られ、残念である。 ・教師間の意思疎通・情報共有を密にし、専門性+αを図ることが大切。	・生徒が自ら学ぶ授業を目ざす一環として、授業中は、タブレットを机上に置き、自分のタイミングで使用できるようなシステムを確立したい。そのために、夜のうちに確実に充電をする習慣をつけたい。 ・時間をマネジメントすることも念頭に、研究に対して全力で取り組み、授業力を上げる意識をもてるようにしたい。
		・（教師が）教える立場から（生徒が）学ぶ授業への意識改革を図る。	B				
		・自発的な学びを支える道具となるように、タブレット端末の活用を常態化する。	B				
	教職員の業務磨き	・時間等をマネジメントして研究と修養に努め、学習や生徒指導力、人間力を磨く。	B	▲同僚の時間を配慮するからか、声をかけづらい雰囲気を改善していきたい。			

【自己評価】 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない

【総合評価】 自己評価をもとに 上記のA・B・C・Dで評価

【関係者評価】 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない